

## 令和6年度「インクルーシブな学校運営モデル事業」の概要

### ○ インクルーシブな学校運営のおさえ

連携校が双方の特色や専門性を生かし、生徒に「交流および共同学習」をはじめとする多様な「共に学ぶ場」を提供するとともに、特別支援教育に関するより実践的な共同研修や情報交換等を可能にする、連携・協働を基盤にした学校組織マネジメント

#### 【1年次の取組】

1. グランドデザインへの明記 ⑫  
「交流および共同学習」、「共に学ぶ」、「自立活動」を重点として位置付け。
2. 教職員への説明  
中高養校長及び特別支援教育課によるオンライン説明会を両校で実施。
3. 保護者への説明 ⑪⑫  
両校保護者への説明会（中高養へはオンライン）を実施。お知らせ文書の発出。
4. 「交流および共同学習」委員会の設置  
更農はSAS委員会で代替し、中高養は設置要項を策定して設置。
5. 両校合同の「交流および共同学習」委員会の開催 ⑰  
3月末、両校の「成果と課題」を持ち寄り次年度の取組について方向性を協議。
6. 「交流および共同学習」実施要項の策定・運用 ⑬⑭⑮⑯  
対象生徒の決定。受け入れ可能な授業等の情報提供。
7. 「連携校の教育資源を活用した教育活動」実施要項の策定・運用 ③⑥⑩  
学期ごとの要望集約。要望を実現するための検討。

### ○ インクルーシブな学校運営の目的

障がいの有無にかかわらず、すべての生徒が多様な個性を認め合い、支え合いながら、共に学んでいくことができる教育環境をつくり、そこでの学び合いの蓄積と広がりを通して、誰もが生き生きと活躍できる社会の実現に寄与すること

#### 【1年次の取組】

1. 教職員アンケートによる現状把握と共有 ④⑦⑧⑨  
「交流および共同学習」の計画、実践、評価の各段階で求められる取組やモデル事業に対する意識に関して質問を構成。回答率に課題。
2. 生徒アンケートによる現状把握と共有 ③④⑥  
中高養の学校間交流「交流学习」の目標を基に「経験」と「意識」に関する質問を構成。両校共に「経験」と「意識」に関する項目の間に相関関係を確認。

- ◆ 各項目末尾の丸数字は「カリ・マネ便り」のバックナンバーです。中高養はアーカイブ、更農は共有フォルダから見るすることができます。

注) インクルーシブな学校運営の「おさえ」「目的」「目標」は、文科省や道教委が定めたものではなく、B地区の事業推進に必要な指針として、昨年の取組を踏まえて独自に整理したものです。

## ○ インクルーシブな学校運営の目標

### A 多様な「共に学ぶ場」を提供し、互いに尊重しながら協働して学ぶ態度を育む。

#### 【1年次の取組】

1. 事前の意見交換会でねらい等を共有して実施した学校間交流 ⑤⑨  
学校紹介動画の視聴や自己紹介動画の作成。「振り返りシート」の生徒感想に変化。
2. 更農学校設定教科「カルチベーション」における「オンライン共同学習」 ⑬⑭⑮  
SSTの手法を活用した授業を更農1年A組で実施。中高養生徒3名オンライン参加。  
授業効果を従来の授業と比較し有効性を確認。
3. 中高養美術科における共同学習 ⑮⑯  
「雪に光の色をつけよう」を主題に第2学年選択教科で実施。更農第2学年希望生徒4名参加。高い授業効果を確認。
4. 中高養音楽科における共同学習 ⑮⑯  
歌唱「with you smile」、器楽「リメンバー・ミー」（カホンによる演奏）を題材に第1学年必修教科で実施。更農第1学年希望生徒4名参加。高い授業効果を確認。
5. 更農農業クラブと中高養生徒会とのオンラインによる交流 ⑬  
中高養生徒会の生徒（3名）のプレゼンテーションについて更農農業クラブの生徒（3名）がアドバイスをする設定で交流。

### B 共同研修や情報交換等を通して、実践的指導力を高め、学校の教育力の向上を図る。

#### 【1年次の取組】

1. 初認段階教員研修における更農授業への参加 ②③  
中高養教員2名、学校設定教科「カルチベーション」にSTとして参加。
2. 更農数学研究授業への参加 ⑩  
中高養教員3名が授業・研究協議に参加。
3. 中高養夏季講演会への参加 ⑤  
生徒指導に関する講演会に更農から10名程度が参加。
4. 中高養公開研究会への参加 ⑪⑫  
授業公開、モデル事業報告会、教育講演会に更農から多数参加。
5. 「共に学ぶ会」の創設 ⑦⑩⑪⑫⑬⑮⑰  
更農生徒の実態を踏まえたテーマで6回開催し毎回両校合わせて10～15名程度の参加。継続を望む声多数。
6. 体育科教員の情報交換 ⑩  
中高養の体育科の授業を参観し情報交換。
7. JSTに関する情報提供 ⑩  
令和7年度更農選択教科「カルチベーション」新設に伴う指導内容検討の一環。
8. 数学教材の双方向の情報提供 ⑭  
中高養が使用している教材の提供。更農で使用している基礎学習プリントの提供。

注) インクルーシブな学校運営の「おさえ」「目的」「目標」は、文科省や道教委が定めたものではなく、B地区の事業推進に必要な指針として、昨年の取組を踏まえて独自に整理したものです。